

長果枝率を約30%に抑えたニホンナシ「幸水」の省力せん定方法

研究のねらい

「幸水」は、長果枝に着果した果実の肥大が良好なため、長果枝を重点的に利用した栽培が行われています。この栽培法は、側枝の更新を頻繁に行う必要があり、せん定作業に多くの労力がかかります。そこで、品質向上と同時に側枝の利用年数の延長を可能とした技術「ニホンナシ「幸水」の摘心処理と1回摘果による新栽培体系（平成14年度普及に移しうる技術）」を基本に、さらに、長果枝率を慣行の半分程度に抑えた省力せん定方法を新たに開発しました。

技術の特徴

1 省力せん定技術

- (1) 省力せん定の結果枝比率は、長果枝～3年枝まで各30%、4年枝以上10%を基準とします（図1）。

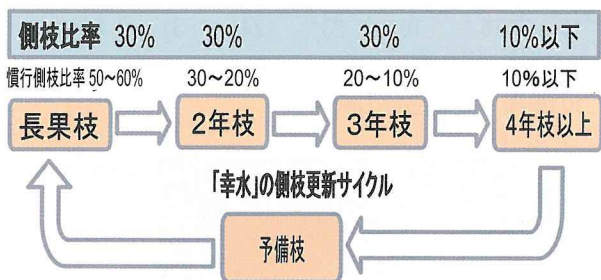


図1 側枝更新サイクル

- (2) 省力せん定では長果枝率を慣行の1/2の約30%とすることで、せん定時間を約35%短縮できます（図2）。
- (3) 省力せん定では3～4年枝まで枝齢の進行による果実肥大の低下はみられず、全体として慣行せん定と同等の大玉果生産ができます。

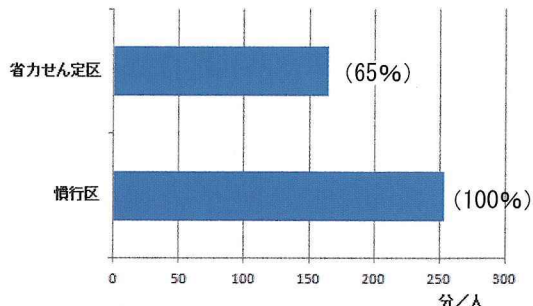


図2 1樹当たりのせん定時間

- (4) 省力せん定は慣行せん定と比べ、収量、果実糖度の低下はみられません。
- (5) 新梢発生数、新梢伸長量、側枝のデンプン含有率の減少など樹勢低下の影響はみられません。



写真 省力せん定樹の開花状況

2 留意点

- (1) 側枝の利用年数を延ばすためには側枝上の短果枝の維持が重要であり、摘心など新梢管理を実施します。
- (2) 樹勢維持のため予備枝は従来どおり、側枝本数と同数を目標に確保します。

今後の取り組み

普及指導機関、JA生産部会等と連携して、各産地へ普及を図ります。

（執筆者：吉岡 正明）